

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

班活動などを通して、互いを知り合うことの必要性について述べたあと、語り合う中での自身の変容について語ってくれました。

初めのころ、自分は言える方だったから、  
「なんて言えないんだろう」  
「自分の思ってることをただ言ったらいいだけなのに」  
「誰が何思ってもいいのに」

みたいな感じで思ってた。けど、それが言えない子がいて。けど言えないからって何も考えてないわけじゃないっていうのも、全体学習の中で、クラスの中で、学活とかしたり、いろんなことがある中で分かってきた。

「なんでいつもあの子、道徳のとき寝てるんだろう」とか、

「なんて言わないんだろう」みたいな。

「なんでほとんどの子がいいって言ってるのに、あの子だけ反対してるんだろう」とか。

それを、学校生活の中で気づくようになっていった。

「そうなんだ」って、大人が言うんじゃないって。

気づけるような仕掛けを、教師がどれくらい持っているか。仕掛けることの必要性を、教師がどれくらい感じているか。つまり、人と関わることの大切さ、人とつながることの大切さ、人を知るることの大切さについて、その必要性をどれくらい感じながら教育活動に就いているのか。

こういった活動は、面倒といえば面倒なことかもしれません。しかし、見方を変えれば、面白いことでもあります。子どもたちの持つしなやかさ、たくましさ。子どもたちは大人が思いもつかないことを言ったり、したりします。そのとき、子どもたちを信じ切れてなかった自分に気づかされ、愕然とし、子どものもつ可能性に教えられるのです。そしてまた、やっぱり子どもたちを信じよう、と思うのです。

彼女の変容について、私は間髪入れず訊き返しました。

「なんで気づけた？ どうやったら気づく？」

突然彼女は笑い出し、言いました。

何せひたすら待ってたよね、先生(笑)。「早く! もういいじゃない!」って思ってた(笑)。

あっけらかんと笑って言う彼女に、私自身あらためて気づかされました。時間に急かされる現代社会。けど、人を育てるうえにおいて、「手間暇をかける」ことをサボってはいけないように思います。時代の波に押し流されて、「はやく! はやく!」と言いがちです。けど、じっくり時間をかけて待つ。「信じて待つ」ことが、「育てる」ことにおいては大切ではないかと思えます。子どもたちが語りはじめるまで、一人一人が今、何を考えているか、私は考えていました。見ていると、それが分かってくるような気がしました。パッと見、何も動きはないのですが、よくよく見ると、個々に葛藤したり、動き出そうとしているように見えるのです。ですからその時間は、「意味のある沈黙」だったのです。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおランチ代表

